

# 平成31年度学校自己評価システムシート(埼玉県立越谷特別支援学校)

目指す学校像	自立する力を育て、一人一人の児童生徒を伸ばし、保護者や地域の期待に応える学校
--------	--

重点目標	1安全な学習環境を整え、「R-PDCA」のサイクルに基づく充実した授業づくりを行う。 2保護者との連携、本校教育の情報発信、地域資源の活用等で、開かれた学校づくりを行う。 3教職員の特別支援教育に関する専門性を向上させ、教育力向上の基盤づくりを行う。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月1日 現在)		
年 度 目 標					年度評価(2月1日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートでは、教育支援プランに基づいた指導支援、分かりやすく意欲を高める指導、教材教具の工夫等について高い評価を得ている。</li> <li>個々の教育実践においては、さらに児童生徒一人一人の実態に応じた指導を行うために、個々の学習や生活の状況、発達や障害の状態についての客観的な事前の評価(リサーチ)を大切に「R-PDCAサイクル」の推進が課題となっている。</li> <li>12年間のキャリア教育の指標となる「時期のおさえ」を作成した。引き続き小中高の系統性・発展性のある指導が課題である。</li> <li>学習指導要領の改訂に向けた研修を進めている。児童生徒の多様な実態に応じた教育課程について、各類型における具体的な解決が求められる。</li> <li>学校教育目標と目指す学校像について今年度中の完成を目標に検討を始めている。</li> <li>寄宿舎においては学校との連携により児童生徒の自立に向けた指導支援が行われている。</li> <li>ヒヤリハット事例の共有や事故事例の共有を行っている。未然に防ぐために共通理解を広げることが必要である。</li> <li>大規模災害時の引き取り訓練を計画している。</li> </ul>	(1) 児童生徒の実態把握を踏まえたR-PDCAサイクルに基づく充実した授業づくり	①授業づくりにおいて、児童生徒一人一人の心身の発達や障害の状態について、客観性や根拠に基づいた実態把握を行う。 ②研究部を中心に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究授業ならびに研究協議を計画的に実施し、授業改善の視点を共有する。	①授業づくりにおいて目的と手段を明確にした指導を行い、客観的に児童生徒の成長を評価することができたか。 ②研究授業及び研究協議を通して、「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を行い、成果を共有することができたか。 ※教員対象アンケートを実施して評価に生かす。			
		(2) 各教科等の内容やキャリア発達との関連をもたせた指導計画及び教育課程の作成	①学部間交流等の研修を実施し、全教員が12年間の教育活動の見直しをもてるようにする。 ②指導計画や学習指導案等に、学習指導要領の内容との関連、キャリア段階における目指す姿などの指標を示す。 ③教育課程検討委員会を中心に、各類型の教育課程に関する課題解決に取り組む。	①他学部の教育活動について理解を深めることができたか。 ②学習指導要領との関連や生活年齢等を踏まえた指導計画や学習指導案を作成できたか。 ③各類型の課題について改善し次年度教育課程を編成することができたか。 ※教員対象アンケートを実施して評価に生かす。			
		(3) 学習環境の安全確保	①安全点検や事故事例、ヒヤリハット事例から誘因や予防策を共有し、再発防止のための対策を実行する。 ②緊急時対応や災害対策について個々の児童生徒を想定して常に見直し、改善を行う。	①安全点検や事例から予防策を講じ、事故を未然に防ぐことができたか。 ②緊急対応訓練や防災訓練等の実施後、随時反省を行いマニュアル等の改善をすることができたか。			
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外ホームページは保護者からの評価が低い。</li> <li>交流会を実施し本校及び本校の児童生徒についての理解を広めている。高校生や大学生等の活用について検討の余地がある。</li> <li>支援籍学習や外部支援の取組みは定着している。</li> <li>地域資源の活用について掘り起こしが必要である。</li> <li>月例学校公開や医療的ケア地域連絡協議会等を実施し、本校教育活動の周知を行っている。</li> <li>寄宿舎では日常的に地域に便りの配布を行い、存在をアピールしている。また若竹祭等の行事を行い、卒業生や保護者、地域との交流を行っている。</li> </ul>	(1) 保護者との連携	①個別面談や授業参観、日常の情報交換等、保護者とのコミュニケーションを大切にする。 ②児童生徒の教育支援について分かりやすい説明を工夫し、責任ある説明ができるようにする。	①②学校と保護者が共通理解をもって教育支援にあたり、児童生徒の成長の喜びを共有することができたか。 ※保護者アンケートを実施し評価に生かす。			
		(2) 本校教育活動の周知や地域人材活用等の開かれた学校づくり	①本校ホームページに、鮮度の高い教育活動の情報を速やかに周知する。 ②運動会や文化祭等の行事でリーフレットを配布するなど、地域の人材などの資源の情報を集める。	①ホームページを活用して保護者や閲覧者に有意義な情報を提供し閲覧回数を増やすことができたか。 ②地域の人材活用を広げ教育活動を充実させることができたか。			
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>新転任の教職員も多く、全体として特別支援教育の専門性を向上させ、学校の教育力を高める必要がある。</li> <li>教職員数が多く、互いに協力し合いチーム力を高め維持することが必要である。</li> <li>学校における働き方改革が求められており、ワークライフバランスの確保が課題である。</li> </ul>	(1) 教職員の専門性の向上	①外部研修への参加を積極的に推奨する。校内への還元ができるよう情報共有を推進する。	①長期休業期間等に積極的に研修できたか。その情報を共有することができたか。			
		(2) 学校の教育力の向上	①各会議や指導単位ではチーム力を中心に教員間のコミュニケーションを促進し、チーム力を高める。 ②各教職員は公務員としての自覚をもち、相互にワークライフバランスを大切にする。	①活発で効果的な会議運営や指導グループ運営ができたか。 ②教育公務員としての服務規律を守り、ノー残業デー、ふれあいデー等の取り組みを行えたか。 ※教員対象アンケートを実施して評価に生かす。			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	平成	年月日
学校関係者からの意見・要望・評価等		